



「トロッコ列車」に喜ぶ子供たち

JR日向市駅(日向市)の旧駅舎のお別れイベントが駅構内などで行われた。高架化に伴い、新駅舎が昨年12月に開業、旧駅舎が解体されることになったため。

イベントでは、旧駅構内の線路で「トロッコ列車」を走らせた。人力で動かす木製の屋根付きで、線路の点検などに使っているエンジン式の計2台。家族連れらが乗り、歓声を上げていた。「トロッコ列車」に乗った同市日知屋東小6年、黒木菜穂さん(12)は「線路を歩いているみたいで楽しかった。思い出がある駅がなくなるのは悲しい」と話していた。

レールは3月上旬から撤去し、旧駅舎も4月中旬から解体する。

JR日向市駅高架化 旧駅舎にさようなら

高架化に伴い、旧駅舎が解体されることになったため、旧駅舎にさようならイベントが行われた。同市日知屋東小6年、黒木菜穂さん(12)は「線路を歩いているみたいで楽しかった。思い出がある駅がなくなるのは悲しい」と話していた。

レールは3月上旬から撤去し、旧駅舎も4月中旬から解体する。



トロッコ列車に乗って旧駅舎との別れを惜しむ人たち

さようなら旧日向市駅 トロッコ列車に乗り別れ惜しむ

昨年十二月のJR鉄道高架化と新日向市駅開業に伴い、使われなくなった旧駅舎のお別れイベント「さようなら旧日向市駅」が二十四日、日向市の同駅であった。

撤去される旧駅舎と線路に感謝しようと新町まち育てグループなどが開いた。人気を集めたのは、使われなくなった線路上をトロッコ列車で走る企画で、二台用意されたトロッコ列車には、大勢の親子連れが長い列を作った。子どもたちはここに顔でトロッコ列車に乗り込むと、さわやかな風を受けながら、線路の上をのんびり走った。

ほかにも積み木やドミノ並べ、ぜんざいの振る舞いなどがあり、終日にぎわった。旧駅舎へのメッセージコーナーには「今までありがとう」といった多くのメッセージが寄せられていた。

日向市細島の親子三人でトロッコ列車に乗った関本奈々葉ちゃん(4)は「怖くなかった。また乗りたい。兄の拓己君(6)は線路を走るのが楽しかった。今度は新駅から列車に乗りたい」。母親のさゆりさん(28)は「田野町の実家に帰省するときに旧駅舎をよく利用した。子どもたちも喜んでいたので思い出しに残るのでは」と話していた。

日向市駅は大正十年に高駅として開業(昭和三十

八年に日向市駅に改称)。旧駅舎は大正十四年に完成し、昭和二十七年に改築して現在に至る。レールと旧駅舎は今年夏ごろまでに撤去される予定。駅前は日向市が平成二十年度までに整備する予定で、東口にはバスやタクシー乗り場が配置された。旧駅舎撤去後の西口にはイベント広場などを配置し、新しい日向市の顔が完成する。